

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 民生博愛会

大野保育園

1. はじめに

- 令和4年度は89名でスタートし、途中入退所はあったが96名の入所で終わった。
- 途中入所は未満児がほとんどで、職員不足もあったができる限り受け入れた。
- 途中入所を受け入れるため、保育士の採用を考えて常時募集をし職員各自でも探していたが、年度途中での保育士の採用はなく、年度始めに採用したパート保育士1名のみであった。
- 子どもの育ちを読み取り、保育士が適切な援助をすることで遊びの質が深まった。
1日の大半を保育園で過ごす子ども達の様子をしっかりと保護者に伝え、保護者の状況に合わせて支援をしながらコミュニケーションを図り信頼関係を作る努力をした。
又、丁寧な対応説明と明るい笑顔と挨拶を心掛けた。
- 園長は職員間の強調性、又保育士としての資質や対応の仕方を高めていく姿勢を忘れずに保育や保護者との対応ができるようにした。
- 新型コロナウイルス感染予防対策のため、職員や園に出入りする保護者等にマスクの着用を義務付け、登降園時の受け入れ等を玄関のみでの対応にし、保護者等の園内への出入りを控えてもらった。
- 新型コロナウイルス感染防止対策のため、室内、玩具、手指の消毒を徹底して行った。
- 新型コロナウイルスの影響により、例年行っていた父母や祖父母参加の行事は中止としたが、運動会とおゆぎ会、卒園式のみ内容を大幅に変更し時間も短縮して行った。
- 4月には新型コロナウイルスが園内で流行し、感染拡大防止のため臨時休園となった。

2. 保育活動

①保育目標について

子どもは豊かに伸びていく可能性をその内に秘めている。
その子どもが健やかに育ち、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うことに重点をおき、下記のことを目標とし保育を行った。

- ◎健康で心身共に丈夫な子
- ◎良い悪いの判断が出来る子（道徳心の芽生え）
- ◎やる気、根気のもてる子（意欲・自発性）
- ◎思いやりのある子（共感性）
- ◎笑顔の絶えない子

②保育内容について

子ども達は心身共に健康で全ての面での発達を保障し、安心してゆったりとした気分で快適に過ごせるよう保育を進めた。

又、1人ひとりの発達過程に応じて個人差に配慮した。

子どもの個性を大切にしながら、基本的な生活習慣の確立を図った。

- ・ 子どもの個性を認め、1人ひとりの心身の発達過程に応じた適切な援助をすることに努力した。
- ・ 裸足、薄着の習慣を付け、体力作りに励んだ。
- ・ 園外遊びを活発に取り入れた。
好天の時にはできる限り戸外へと出掛けた。
又、砂遊びや水遊び、雪遊びを活発に行った。
- ・ 縦割り保育や異年齢児交流を図りたかったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため各クラス単体での活動が多かった。
- ・ 保護者参加の諸行事を行うことにより保護者と交流を深め、保護者に子ども達の様子を見てもらいたかったが、今年度も新型コロナウイルスの影響により、以上児の運動会とおゆぎ会、年長児の卒園式を見てもらうだけであった。
- ・ 避難訓練や交通安全指導を実施し、有事の際の避難行動を習得した。(毎月実施)
- ・ 食育指導や保健指導を実施し、自分の体や健康に関心を持てるようにした。(年6回実施)
- ・ 週1回リズム運動を実施し体力の増進を図ってきた。
リズム感、柔軟性を養うことが出来た。
又、集団遊びやゲーム遊びを定期的に行いルールを学び集団で遊ぶことの大切さを習得した。

③保育計画について

- ・ 0歳～6歳まで一貫性のある計画とし、子どもの発達の状態や日々の状態によっては指導計画にとらわれず柔軟に保育を進め、保育士の連携体制の中で個別の関わりも十分に行った。
- ・ 養護と教育を基本において、教育及び保育の内容に関する全体的な計画、年案、月案、週日案、個別計画と適切に立てて保育を進めた。
- ・ 子どもへ愛情をもって一生懸命に子どもと向かい合い、子どもを主体とした計画を作成していく大切さを忘れずに職員のチームワークを重視した。
- ・ 子どもの生活と発達を視野に入れ計画、実践、評価をすることで保育の質の向上に繋がるようにした。
- ・ 各書類に関しては常に保育を見直し、定期的に自己評価を行いその結果に基づき、より良いものを作り上げる努力をした。

④保育環境について

園児が安心して快適に、そして安全に過ごすことができることを目標として次の通り実施してきた。

- ・ 保護者と離れて長時間過ごす園児が不安を感じることなく安心できるように、クラスはもとより園全体も安心できる優しい雰囲気作りを心掛けてきた。
- ・ 園内外は常に清潔を保ち、特に保育室やトイレなどをはじめとした常時使用する場所は、毎日清掃と消毒を行い、常に清潔を保った。(新型コロナウイルス感染防止対策を含む)
- ・ 施設内や園児が使用する寝具、マット、食器、遊具等についても日々点検を怠らず、清潔を保つことを心掛けた。(月1回の点検と毎日の点検)(新型コロナウイルス感染防止対策を含む)
- ・ 各種マニュアルや点検表を作成し最善な環境を整える努力をした。
- ・ 備品の状態を常々把握したり、危険な箇所や破損があった場合は迅速に修理修繕を行い、園児及び職員が事故なく安全で快適に生活できる環境作りを心掛けた。
(施設等自主点検表・下記関係自主点検表を利用)

⑤保育開始日及び保育終了日について

- ・保育開始日 令和 4年 4月 1日
- ・保育終了日 令和 5年 3月31日

⑥開園時間・休園日について

・開園時間

月曜日～土曜日 午前7時00分～午後7時00分

* 保育標準時間認定…午後6時～午後7時までを延長保育とし、利用者からは延長保育料を徴収した。

* 保育短時間認定 … 午前7時～午前8時までと午後4時～午後7時までを延長保育とし、午後4時以降の利用者からは延長保育料を徴収した。

・休園日

日曜日および祝日・国民の休日

3. 特別保育事業について

①障がい児保育

令和4年度は障がい児保育に該当する園児はいなかった。

②延長保育

保護者の就労形態から求められる必要性の高い事業なので積極的に行った。

新型コロナウイルスの影響か、年度当初の計画より利用人数が少なかったが、新型コロナウイルスの影響が大きかった令和3年度よりは120名ほど増えた。

- ・保育標準時間認定…午後6時～午後7時 1回200円の延長保育料(おやつ代含)
- ・保育短時間認定……午前7時～午前8時 無料
- 午後4時～午後5時 1回150円の延長保育料
- 午後5時～午後6時 1回150円の延長保育料
- 午後6時～午後7時 1回200円の延長保育料(おやつ代含)
- * 年間利用人数 保育標準時間認定 … 764名
- 保育短時間認定 …… 28名

③一時預かり保育

保護者の事情により1ヶ月で12日を上限として子どもを受け入れた。

今年度はほとんどが未満児の利用で、新型コロナウイルスの影響か利用人数が少なかった。

- * 利用時間 午前8時00分～午後4時00分
- * 利用料 1,800円
- * 年間利用人数 51名

④世代間交流

お年寄りと一緒に暮らすことがなく成長してきている子ども達が、お年寄りとの触れ合いを持つことにより、父母とは違う優しさや暖かさを知ってもらうため、お年寄りとの交流を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止対策として、老人施設訪問や園児の祖父母を保育園に招待しての交流行事を全て中止にした。

代わりに、園児の祖父母には七夕に祖父母の短冊を飾ったり、敬老の日には葉書を送り、お正月は年賀状を送り、秋には交通安全のお守りを手作りをして送った。

老人施設には、プレゼントを職員が持参した。

- * 老人施設への訪問を予定。(年間9回の予定を全て中止)
- * 行事の時に近隣及び園児の祖父母を招待しての交流会を予定。(年間3回の予定を全て中止)

4. 給食業務について

- ・ 薄味を心掛け、おいしく食欲のそそる盛り付けで提供した。
- ・ アレルギー除去食、離乳食とも出来る範囲で調理し、アレルギー児用の食器を用意して間違えることのないように提供した。
- ・ 季節感が感じられるもの、手作りのおやつなどを意識して園児に提供した。
- ・ 検食は職員が交代で行い、給食材料及び調理完成品は保存食として冷凍し、規定日数保存した。
- ・ 食育計画に基づき「食べることを楽しく」になるよう努力した。
又、年6回食育指導を行った。
- ・ 玄関対応になる前は、毎日の給食を献立サンプル展示台で保護者に知らせていたが、保護者に園内に入ることを控えてもらったためサンプル展示はできなかった。
- ・ 調理室は衛生的、安全面ともに十分な配慮の中で調理し、給食を提供した。
- ・ 栄養士との連絡を密にとり、食材、産地の安全面に十分注意し、園児にとってより安全な給食を提供した。
- ・ 全園児、主食と副食の完全給食とし、3歳以上児については主食代1,500円、副食代4,500円を徴収した。

5. 保健衛生・安全点検について

①保健衛生および検便について

- ・ 主任保育士・正職員及び調理業務に携わる者や、未満児のミルクや離乳食に携わる保育士も月1回の検便と年2回のノロウイルスの検便を義務付け実施した。
なお、この場合の検便細菌検査は適切な専門業者に依頼した。
- ・ 食中毒の発生皆無を目標とし、調理用手袋着用、洗剤での手洗いや消毒、調理室内の清掃、食器類の高温乾燥消毒を毎日行うなど、日々の業務に十分注意を払い徹底してきた。
- ・ 園児は手洗い後、ペーパータオルで手を拭き消毒をした。
また、コップは給食食器以外は個人コップや紙コップを利用した。

- ・ 手洗いは職員・園児も必ず手指消毒を行い、衛生面や消毒の必要性についての意識をより高め、習慣化を行った。(新型コロナウイルス感染防止対策を含む)
- ・ 保健計画を作成し、清潔を保ち安全に過ごせるようにした。
- ・ トイレは塩素消毒を行った。
- ・ 嘔吐物処理セットを用意し素早く対応し感染症などの流行時に役立てた。
又、病気などの情報提供や注意を呼びかけた。
- ・ 月曜日には園内に毎日の清掃、消毒以外に、更にウイルス除去、除菌スプレーを散布した。
(新型コロナウイルス感染防止対策を含む)
- ・ 新型コロナウイルスの感染した場合は、園内やクラスを再度くまなく次亜塩素酸で消毒をした。

②怪我について

- ・ 怪我、事故防止マニュアルを作成し、怪我の内容や経緯を把握し、常に園児達の様子に注意をして怪我の未然防止に努力をしてきた。
- ・ ヒヤリハット報告を行い、その内容を周知し対策を協議した。
- ・ 怪我が発生した時の対応、園児帰宅後の対応、怪我発生時の経過記録を作成した。
- ・ 日本スポーツ振興センター、園児総合賠償保険、特別保育事業各種保険に加入した。

③安全点検について

- ・ 園内外の点検を日頃から徹底して行い、古い物や危険な物から廃棄、交換、修理を行った。
- ・ 玩具や遊具は、使用できない物や破損した物から取り替えを行い、安全な玩具を提供した。
- ・ 玩具は使用後随時消毒を行い清潔を保つ努力をした。
- ・ 新型コロナウイルス感染防止対策として、布製の玩具の使用を控えた。
- ・ 砂場の管理を重視し、消毒を行い清潔を保つ努力をした。
- ・ 1日中玄関を施錠し、インターホンで職員が確認してから解錠をした。
- ・ 施設内、園庭、遊具等、火気関係の安全点検を月1回と毎日行った。
- ・ 各種マニュアルを作成し、万が一の時に慌てることなく適切に対応できるように心掛けた。

6. 各連携について

①保護者との連携・対応

核家族化が進み1人親家庭が年々増加していることを考えると、益々家庭と密着した連携が必要となると実感した。それらのことを考慮して保育活動を展開し、保護者が安心して子どもを預けることのできる保育園を目指した。

- ・ 入園前の保護者への説明を行い、保育園への理解をお願いした。
- ・ 年度始業に年間行事予定を連絡したが、父母・祖父母参加の行事については新型コロナウイルスの影響により行うことができなかったが、その都度父母の会の会長と相談をし決定した。
- ・ 保育参観日は年2回とも中止し、個人面談は希望者のみとし、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行った。
(面談は稼働している保護者の時間帯に合わせて面談できるように配慮した)
- ・ 父母会が主体となり廃品回収事業を実施してその回収金額は父母会費に納入した。
- ・ 保育通信や園だより、ほけんだより及びクラスだよりを発行し、必要なときは随時追加発行を行ってきた。
- ・ 連絡ノート、張り紙、ホワイトボード等も活用し、保護者との連絡に遺漏のないようにしてきた。
- ・ 年度末に保育園利用者アンケート調査を行い結果を公表した。
その中で、職員の対応や態度に対しての意見が多かったので、職員への指導と教育がより一層必要だと痛感した。

②関係諸機関について

- ・ 北斗市役所との連携を密にし保育活動の増進を図った。
- ・ 北斗市の保健師と連携し、支援が必要な子どもや母親についての保育や対応をした。
- ・ 幼稚園、保育園、学校のグループの一員として連携を密にし保育の増進を図った。

7. 職員資質の向上

保育ニーズへの対応をするべく職員は、保育の諸活動を通して知見と人間性を深め、知識や技術、そして自己研鑽に努める努力を怠らないようにしてきた。

- ・ 保育活動中の園児への言葉掛け等をはじめとする指導方法に注意しながら取り組んだ。
- ・ 保護者や園外の方への対応に必要な挨拶や電話の応対など、社会人として必要な教養を身に付けるよう努力した。
- ・ 華美やだらしない服装など他の人に違和感を与えるようなことは絶対に避け、保育園の一員として相応しい身だしなみを身に付けるようにした。
- ・ 保育に不可欠な知識や教養を身に付けるため、各種研修会に積極的に参加する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により各研修会の中止が続き、DVDやオンライン等で行えたものを受講した。

《 参加研修会 》

- ・ 函館地域発達支援コーディネーター連絡会 スキルアップ研修会
- ・ 幼児教育初任保育者研修
- ・ 函館地域発達支援コーディネーター連絡会 発達支援コーディネーター養成研修①②③④
- ・ 保育現場に役立つ記録・お便り作成研修

8. 地域子育て支援センター「ゆめのポケット」

時代背景の移り変わりと共に親子のあり方、子育て不安や育児ノイローゼが進む中、地域の保育園としてサポートしていく場と考え平成20年度より北斗市から委託を受けて事業を行なった。

北斗市、保健センター、ピュアランド(七重浜こども園)、ちいばっばクラブ(浜分こども園)、なかよし広場、おひさまクラブ(第二東光保育園)、との連携をしながら行った。

しかし、新型コロナウイルスの影響により各行事を中止にしたり、時間制限や人数制限をして活動した。

今年度は新型コロナウイルスの影響により北斗市および北斗市内5支援センターの合同行事は中止となった。

- ・ 相談業務 … 来園相談 0件 電話相談 91件
- ・ センター登録数… 家庭数 19家庭 子ども数 22人

・ 活動内容

* 通年活動

月曜日～金曜日 9時30分～12:00 13時30分～16時00分
親子製作活動…13回 お誕生会…4回 ポケットだより発行…12回

* 市内5支援センター合同事業

夏祭り(中止)・にこにこ運動会(中止)・クリスマス会(中止)・にこにこニュース発行

* 主な季節活動

- 4月 園庭で遊ぼう(保育園園庭)・こいのぼり製作
- 5月 公民館裏の公園で遊ぼう・お花見・ソフトクリームを食べに行こう・園庭で遊ぼう
(保育園園庭)
- 6月 いちご狩り・北斗市本町児童公園で遊ぼう・お誕生会
- 7月 七夕飾り製作・プール遊び(保育園プール)・缶バッチ製作
- 8月 プール遊び(保育園プール)・小物入れ製作
- 9月 十五夜製作・砂遊び(保育園園庭)・お誕生会
- 10月 ハロウィン製作・園庭で遊ぼう(保育園園庭)
- 11月 スクラップブック製作
- 12月 クリスマス会・クリスマス製作・しめ飾り製作・お誕生会
- 1月 カレンダー製作・雪遊び(保育園園庭)
- 2月 節分・節分製作・園庭で雪遊び・ひな祭り製作
- 3月 お楽しみ会・ペン立て製作・お誕生会

9. 放課後児童クラブ

令和2年度4月より北斗市の委託を受け、第二大野児童クラブ(本町さわやか会館)と市渡児童クラブ(市渡会館)の2カ所を実施した。

10. 施設整備及び備品購入について

《 建 物 》

・なし

《 備 品 》

・なし

《 構築物 》

・収納庫山小屋(園庭用玩具収納)

11. 年間行事について

令和4年度年間行事予定を作成し保育活動を展開した。

又、保護者にも予め年間行事予定表を配布し保育活動に理解及び協力を求めた。

しかし、新型コロナウイルスの影響により中止や内容を大幅に変更や縮小をして行ったが、子ども達は楽しそうにしていたので安心した。

保護者からは参加できる行事がなく残念との声があった。

12. 参考資料

①月初日の園児数

月	北 斗	七 飯	函 館	合 計
4月	89			89人
5月	92			92人
6月	96			96人
7月	97			97人
8月	96			96人
9月	96			96人
10月	96			96人
11月	95			95人
12月	95			95人
1月	95			95人
2月	96			96人
3月	96			96人

* 令和4年度は広域入所が1人もいなかった。

②職員の状況

職 種	人 数	備 考
保 育 園		
園 長	1名	
副 園 長		
保 育 士	19名	正職 8名 常勤臨時 4名 パート 8名
調 理 員	1名	正職 1名
用 務 員	4名	給食兼務 パート 4名
支援センター	2名	正職員 1名 パート 1名
事 務 員	1名	正職員 1名
保 育 園 小 計	29名	
放課後児童クラブ		
支 援 員	7名	常勤臨時 4名 パート 3名
補 助 員	3名	パート 3名
児童クラブ 小計	10名	
合 計	39名	